

「辺野古に基地を絶対つくらせない大阪行動」

7月29日は676回目。

便り vol. 1



この人 大森正子さん

「僕はあなたの前を2秒で通り過ぎる。ゼッケンは見た瞬間から2秒でわかる文言を」ある日署名板を手にピラを撒く大森正子さんの前を通ったグラフィックデザイナーが言ったそうだ。

大森さんは「一つの場所にしか自分は居れない。バナーやゼッケンは分身。私の代わりにあっちこっちに行って主張してもらおう」と100枚を超えるバナー・横断幕、ゼッケンを作り続けている。7月25日、辺野古で行われた海上パレードに参加する力又一隊のゼッケン20枚も作って送った。冒頭の言葉を胸に抱いて。

二〇一三年二月暮れも押し迫った二七日、仲井真沖縄前知事は辺野古の海の埋め立てを承認した。時を同じくして大阪行動に在特会が押し寄せてきた。警察官たちも大勢で来た。JRの職員も大勢来た。襲撃されて弾圧されてつぶされる訳にはいかなないので、多くの仲間が駆けつけた。

緊張し、抗い、主張しながら月日は流れる。今や「大阪駅前広場」は人々が自由に出入りできる公共的な場所であり、表現の自由の保障に可能な限り配慮されるべきパブリックフォーラムなのだ。

「歩道橋の階段に付けると事件にする」と曾根崎署。「じゃあ、この地面はいい?」と大森さん。「そこはいい」と曾根崎署。「曾根崎さんが貼ってもいいと言っているけど、貼ってもいい?」と大森さん。「貼ってもいいです」とJR。ということで駅前バスターミナルの工事がほぼ終わり、整地された地面にはカラフルな横断幕(バナーというらしい。すべて大森さんの手作り)

が貼られ、琉歌が流れている。その歌を楽しみにしている警備員さんもいてくれる。大森さんと警備員さん、JR職員さん「今日も暑いね」「よろしくお願ひします」「こころうさん」「お疲れさん」と笑顔で声を掛け合う。これからの月日はどう流れていくのやら。辺野古の基地が断念されるまで大阪行動は続くのだ。

編集委員 T



毎週土曜日午後3時半から5時までの1時間半、JR大阪駅前です。梅田にでてきたついでにフラリンと寄ってみてください。

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう!